

【野村委員長】 それでは、続いての議題について、事務局からご説明をお願いします。

【小山法人担当課長】 ご説明いたします。

大阪港湾局が所管する外郭団体である株式会社大阪港トランスポートシステムの令和3年度経営評価につきまして、大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例第7条第4項の規定に基づき、諮問をいたします。

内容につきましては所管所属からご説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【野村委員長】 それでは、所管所属からご説明お願いいたします。

【大阪港湾局】 それでは説明させていただきます。

株式会社大阪港トランスポートシステム、以下、O T Sと申し上げますけども、令和3年度事業経営評価についてご説明いたします。

O T Sでございますが、中期目標期間でございます令和7年3月31日までに、北港テクノポート線のうち、2025年、日本国際博覧会の会場となります夢洲地区への主要な輸送手段となります鉄道路線の南ルート部分につきまして、本市の計画にのっとった適切な時期までに確実に建設し、開業している状態を本市の中期目標としております。

様式1の当該事業年度の評価は、後ほどご説明いたします。

まず、様式2の方をご覧ください。

中期目標を達成するために、O T Sにおきましては大阪臨海部活性化に向けた施策を支える鉄道事業の推進策として、本市及び鉄道運行者と協力し、北港テクノポート線のうちの南ルート部分、コスモスクエアから夢洲間の2024年度開業に向けた鉄道施設の整備、及び鉄道整備に係る安定・確実な資金の調達、返済計画の策定を中期計画に掲げ、取り組んでおります。

O T Sにおける年度計画の達成状況におきましては、まず鉄道事業法上の鉄道事業許可関係でございますが、O T Sが所有する鉄道路線を鉄道運行者に使用させるための認可を得るため、2022年度中に事業基本計画の変更申請が行えるよう国との協議を進めるとともに、運行速度の変更等に係る事業基本計画の変更申請を11月に行っております。また、他社の所有する鉄道路線を使用し運行する第2種鉄道事業につきまして、鉄道運行者が2022年度中の申請及び認可を得る予定でありますので、申請に向けた協議に協力しております。

次に、施行認可関係でございますが、鉄道整備等に係る工事計画につきましては、2022年度中に信号や電力整備等の変更申請を行い、認可を得ることとしておりましたが、今年

度中の申請に向けて前倒しし、基本設計や関係者との協議を行っております。

設計・工事におきましては、電気設備等に係る工事契約の変更申請を行うための基本設計や、詳細設計及び工事も計画どおり進捗し、既存構造部分では軌道工事等の準備工に着手しております。

指標の達成状況でございますが、建設費をベースとした事業進捗率の実績値は、目標値と同じ1.30%であり、計画どおり事業は進捗しております。

以上のことから、当該年度の目標達成状況 a (i) としております。

O T S の自己評価でございますが、令和3年度の年度計画につきまして、指標は全て達成できる見込みであり、計画どおり順調に進捗しております。

中期計画の達成に向けましては、本市をはじめ、関係者との協議を重ねるとともに、所定の申請手続を適切な時期に行い、本体工事に向けた施工体制を整えていくとしております。

以上のことから、指標の達成状況はA、中期計画に対する進捗状況はアとしております。

本市の審査でございますが、目標値であります1.30%を達成見込みであり、必要となる手続等は計画どおりに順調に進捗していることから、O T S の自己評価は妥当であると考えております。中期目標の達成に向けまして、今後も各年度計画の取組を着実に進めていく必要がございますので、引き続き監理してまいりたいと考えております。

以上のことから、中期計画に対する進捗状況はア、中期目標に対する有効性はAとしております。

続きまして、様式1をご覧ください。

当該事業年度の評価でございますが、O T S の自己評価としまして、おおむね計画どおり、もしくは前倒しで進んでおりますので、令和3年度における目標は達成見込みであり、最終目標達成見込みは順調とのことでございます。

最終目標の達成に向けた次年度以降の取組としまして、国等の関係者との協議を重ねるとともに、申請手続を適切な時期に行い、本体工事に向けた施工体制を整えていくとしております。

以上のことから、最終目標達成見込みはアとしております。

本市の評価でございますが、全ての項目において順調に進捗しており、今後も中期計画にのっとり年度計画を着実に進捗させていくことで、O T S に求める行政目的の達成につながるものと考えております。引き続き中期目標の達成に向け、関係先との協議や所定

の申請手続を適切な時期に行い、施工体制を整え、工事を着実に進めるよう求めてまいります。

私からの説明は以上です。何とぞご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【野村委員長】 ありがとうございました。

委員の皆様からご意見、ご質問がありましたらお願いします。

【市口委員】 取組1の指標Ⅰの建設費をベースとした事業進捗率、これ、確認なんですけれども、要は総工費に対する令和3年度における完成工事高と、そういうことで良いんですよね、進捗率の算定というのは。

【大阪港湾局】 お見込みのとおりでございます。

【市口委員】 令和3年度におきましても、電気設備等に係る工事計画を変更申請した、ということは、その辺りも多分追加の費用か何かが掛かってきたのかなと思うんですけれども、そういう計画の変更に伴う総工費の変更というか、そういうのはされるということで良いんですかね。

【大阪港湾局】 毎年度それぞれ工事の中身の変更がかかってくる可能性はありますので、各年度において精査を行っていく必要があります。その中で、当然増項目もあれば減項目も出てくるというふうに考えてございますので、その辺りをちゃんと反映させていければと考えてございます。

【市口委員】 ですから、当然そういう仕様の変更もあれば、やっぱり人件費とか材料費とかの増減とか、そんなのもあると思うので、その辺りはもう年度年度で見直していくと、そういうふうにされているという理解で良いわけですかね。

【大阪港湾局】 そのとおりでございます。

もともと目標を設定させていただいたときにも、ちょっと議論になったのかなと思っておりますが、この全体事業費については最終年度が圧倒的にボリュームが高くなっておりまして、やはりなかなか出来高で見ていくのが難しい部分もありまして、各事業年度で見ていくものもあるのですが、令和6年度の最終のところで精算というような形で精査をしていくものが多くなるというふうに想定しております。

【市口委員】 確かに進捗率という点では、令和5年度でも24%という、最終年度になって100%になるということですから、そういう話なんでしょうね。はい、分かりました。

【佐藤委員】 佐藤です。

教えていただきたいんですけど、この目標値と実績値と全く一緒なんですけれども、こ

れは支払っているお金が3億2,000万ということで、計画どおりに中間金を払っていけば達成されると見るんだと思うんですけど、それしか見るところがないということ、ご判断かと思えますけど、先ほどお話ししました、最終年度で予算の増減とか、その辺の増減というのは全部精算されるということで、よっぽど不具合が出るとかでこちらが支払いをしないとか、そういうことがない限りは同じ金額というか、計画に対して実績というのは割と一緒になるものなんですか。今はまだ工事が初めなので一緒ですけど、来年ぐらいからは割と変わってくるものなんですか。そこら辺、教えてください。

【大阪港湾局】 今、団体の状況としては、毎年経費の削減自体にも取り組んでおりまして、最終的な確定額はまだ把握できていませんが、支出している額自体は若干下がる方向性になるだろうと聞いております。

仮に下がったとしても1.3%の範囲内ということ、出来高としては1.3%ということになりますが、金額が3億2,000万から若干下がることは想定されていると聞いておりますが、仮にそこ下がったとしても工事自体は順調に進んでおり、ちょっと経費の削減をしていくというところでやっていきたいと聞いておりまして、仮に削減されたとしても実績値は1.3%だということです。

【佐藤委員】 ちょっともう一度確認したいんですけど、総工事が削減されますと。各年度で建設費をベースに進捗率を算定されていますけど、削減する率に応じて中間金を払うのも削減されていくから、一緒のパーセントになるというのはそんな理解なんですか。いや、すごくぴったりと一緒になので、その辺の仕組みが。

というか、削減されたら、目標に対してはプラスですよ。どうなるんですかね、総工事が下がると、中間金の金額は同じだったら、率が上がるから、目標に対しては実績がプラスになるって考えたら、今後どういうふうに評価していったら良いですか。

【大阪港湾局】 経費の削減という部分につきましては、次年度以降、整理をしなければならぬと考えております。今回、今年度につきましては、少なくとも目標値と実績値が変わらないと聞いておりますが、ここに大きな差が出るようなことがあれば、**どのような形**でお示ししていくのかというところは改めて整理をさせていただきたいと思っております。

【佐藤委員】 ありがとうございます。分かりました。

今期に関しては達成されているということなので、問題ないと思うんですけど、次期以

降がちょっと興味があったので。教えていただいてありがとうございます。

【野村委員長】 野村です。

今の関係のところなんですけども、目標値が1.3%、それで3億2,000万という数字も出てきてはいるので、実績のところですね。出てきてはいますけども、この3億2,000万が1.3%であるというところが変わる可能性があるという理解でよろしいんですか、全体が下がる結果。

今さっき経費削減とおっしゃったのは、建設費が下がるという意味ですよ。

【大阪港湾局】 そのとおりです。トータルボリュームが下がるということでございます。

【野村委員長】 進捗は1.3%はできている。

【大阪港湾局】 そのとおりです。

【野村委員長】 だけど、その金額がちょっと今、幾らかは把握できてないという理解で良いですか。

【大阪港湾局】 そのとおりでございます。

【野村委員長】 その1.3%できているというのも、大体1.3%ぐらいと聞いている、ほぼ目標値と同じぐらいと聞いているけども、正確にトータルの金額もまだ把握できてないので、それに対して何パーセントの金額が出ているのかというのは、ちょっとまだ現時点では正確には確認できてない。けど、少なくとも1.3は満たしているという意味だという理解で良いんですか。

【大阪港湾局】 はい、そうでございます。全体事業費というのは、工事が進捗していくにつれて変化すると考えております。少なくとも令和3年度におきましては1.3%に見合う必要な工事がありまして、それに対してはちゃんとできていると確認しております。3億2,000万円に対して3億一千数百万円程度と聞いておりますので、最終、3月末に精算等があると、若干金額が変わってくるかもしれませんが、今の見込みですとおおむね変更なく、必要な工事、今年度のメニューは全て達成済みということでございます。

【野村委員長】 ほかは委員の皆様、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 それでは、質疑応答は以上で終了させていただきます。ありがとうございました。

それでは、答申の取りまとめですけれども、特にご意見等ありますでしょうか。意見な

しでよろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 それでは、意見なしで取りまとめをお願いいたします。

【小山法人担当課長】 はい。それではそのように取りまとめます。